

わが

訪れてよし、住んでよし 新潟県ナンバーワンのまちを目指して

はじめに

五泉市は、県都新潟市に隣接した人口約4万6千人のまちです。

新潟市から車で約50分の場所に位置し、古くは、村松地区は村松藩三万石の城下町として栄え、明治以降は、軍都として発展しました。五泉地区は、豊富で清らかな水の恩恵を受け、農産物や絹織物

など産業が発展しました。東部には咲花温泉



150万本のチューリップ祭り



大嘗祭に献上された里芋

という美肌効果抜群の源泉を持つ

温泉があり、市民や多くの観光客から愛されています。

肥沃な大地ひよくがもたらす恵みは、全国的にも有数な産地としてポタリ、チューリップ、里芋のほか、クリ、ギンナンなど数多くの特産を生み出しています。

こどもまんなかづくり

本市は、こども家庭庁が推進する「こどもまんなか社会」の趣旨に共感・賛同し、その取り組みを推進するため、「こどもまんなか応援サポーター」を宣言しました。令和6年度重点施策の一つに「こどもまんなかづくり」を掲げ、子ども社会をど真中に据えた一気通貫の体制を構築すべく、結婚・妊娠・出産・子育てにわたり切れ目のない支援を展開してい

ます。

中でも特徴的な取り組みの一つが、不妊治療助成です。

平成21年度に不妊治療助成事業を開始して以来、年齢や回数の上限撤廃、男性不妊手術への上乘せ助成と段階的に制度の充実を図ってきました。令和4年度に不妊治療が医療保険の適用となった後も、保険適用の有無にかかわらず助成の対象とするなど、助成金額を含めて県内トップクラスの支援内容であると自負しています。

令和5年度は38人の方に延べ80件の助成を行い、助成を受けた方の44・7%（17人）が治療後に妊娠されました。全出生数の1割近くが不妊治療によるものと言え、不妊治療助成事業は本市の少子化対策に大きく寄与していると考えられています。

「健康笑顔づくり」の実現に向けて

過疎化・少子高齢化による産科小児科不足や医療人材不足については本市でも喫緊の課題となっています。いつまでも安心して健康で暮らすことができるよう、地域医療体制の確保に取り組んでいます。令和2年1月には民間運営の「五泉中央病院」が開院し、かかりつけ医と大病院などをつなぐ二次救急医療を担っています。手術後のリハビリや在宅復帰に向けた医療を中心に行うことにより、退院後のケアや在宅介護へとスムーズに移行できるよう努めています。医師不足以上に深刻化している看護師不足については、新たに看護師として就業する方を対象に、5年間支援金の支給や、電子カルテを導入する医療機関への補助など、人材の確保と医療機関のインフラ整備に支援を行っています。本市の重点施策の一つ「健康笑顔づくり」で、いつまでも住み



ラポルテ五泉



清流早出川を通過するSLばんえつ物語号

交流人口拡大の取り組み

慣れた場所で、健康で笑顔で生活できる、そんなまちを目指しています。

「訪れてよし、住んでよし」新潟

県ナンバーワンのまちづくりを実現するため、本年度の重点施策の一つに「交流活気づくり」を掲げ、交流人口の拡大によるにぎわいの創出と地域経済の活性化に取り組んでいるところであります。

交流人口の拡大を図るためには、まずは五泉を知っていただき、そして、五泉に来てファインになってもらうことが何よりも重要と考えております。その実現のためにはさまざまな取り組みを行う必要がありますが、特に観光ツーリズム

ムによる五泉への誘客は必須であります。

本市には、自然の恵みによる素晴らしい観光資源がたくさんあります。良質で豊富な水資源により栽培された米や里芋、レンコン、クリ、ギンナン、キウイフルーツなどの農作物、慈光寺の杉並木、緑豊かな美しい山々、清らかな清流、そして美肌効果のある咲花温泉などがあります。その中で一番の観光資源は、3月のミズバショウから始まり、桜、チューリップ、ボタン、「五泉四華」、そしてシヤクヤクへと続く「春の花シリーズ」であります。この時期には多くの方々にお越しいただき、たいへんなにごわいとなります。

このにぎわいが一年中続くために、本年度、五泉市観光協会が「観光魅力づくり補助金」を新設し、地域や民間事業者が行う観光資源の磨き上げや新たな魅力コンテンツの開発に対し支援を行い、交流人口の拡大を図っております。この新たな取り組みをきっかけに地域が一体となり観光で盛り上がり、魅力のある観光地として継続的な発展が期待できるものであり

ます。

その本市の魅力を私が自らトップセールスマンとなり、市外や県外に向けて発信するとともに首都圏でのイベントや毎週放送されるラジオ番組、毎月の記者会見などを通じてPRを行ってまいります。また、本年度よりインバウンドへの取り組みは、前職での知見

プロフィール

- ◆ 面積 351.9 km²
- ◆ 人口 4万6043人
- ◆ 世帯数 1万9034世帯

〔将来都市像〕「ずっと五泉。『次の一歩を、ともに未来へ』」を掲げ、市民の誰もが安全・安心な環境で、潤いや安らぎを感じながら「ずっと」幸せに暮らし続けることができるまちを目指します

〔まちの特徴〕緑豊かな山々、清流、大地に恵まれ、四季折々の花や農産物、また歴史に育まれた産業がいきづくまち



五泉市長
田邊正幸



や人脈を活かし積極的に実施してまいりたいと考えております。より効果的に取り組みを進めるために、県や観光協会などの関係機関や団体、そして市民とも連携しながら、新しい着想と発想を、情熱を持って、交流人口・関係人口の拡大を図り、にぎわいのある五泉市をつくってまいります。

〔市町村合併〕平成18年1月1日 五泉市、村松町の2市町が合併

〔特産品〕ニット製品、絹織物、里芋、レンコン、クリ、ギンナン、キウイフルーツ、チューリップ球根

〔観光〕咲花温泉、村松公園（桜）、ラポルテ五泉、慈光寺、小山田彼岸桜樹林、SLばんえつ物語号

〔イベント〕花シリーズ（ミズバショウ、チューリップ、桜、ボタン、シヤクヤク）、ごせんひゃんで花火、咲花温泉水中花火大会、松城祭巡行絵巻行列

※面積は国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

交流が盛んな先端的な田舎を 目指して

白井市は、東京都心と空の玄関
成田空港からそれぞれ約30kmの
千葉県北西部に位置し、都心に近
いながらも豊かな緑に恵まれてい
ます。

市の中央をほぼ南北に国道16
号、東西に国道464号と北総線
が横断しています。

市の特産品は梨で、1000年以
上の歴史があり、全国でも有数の



豊かな自然と住環境が調和した街並み



甘くみずみずしい「しろいの梨」

産地として知られ、高い生産量を
誇っています。

また、市内には世界に誇れる優
秀な技術を持つ企業が立地する工
業団地、ふるさと産品などを含む
地域に根差した商業があり、農
業・商業・工業の産業やニュータウ
ン開発で整備された近代的な住宅
地と田園風景から成る農村型の住
宅地のバランスが取れた、将来に
向けさらなる発展の可能性を秘め
た豊かなまちです。

全国でも有数の梨の産地

白井の大地は関東ローム層とい
う火山灰土壌で、水はけが良く梨
栽培に適しています。春には梨の
花が咲き誇り、8月から幸水の出
荷が始まり、その後、豊水、あき
づき、かおり、新高、新興と順次
出荷されます。

ふるさと

地域団体商標として登録されて
いる「しろいの梨」は、梨の収穫
量全国1位の千葉県において、収
穫量トップクラスを誇っていま
す。私は、日本一の梨の産地であ
ると自負しています。

地域コミュニティの活性化で 健康で安全・安心なまちに

少子高齢化や地域のつながりの
希薄化、地域の担い手不足など
より、防災・防犯・支え合いなど
地域の課題が深刻化してきていま
す。私は、まちづくりの基本は人
づくりであると考え、地域の課題
を住民が主体的に話し合い、協
力・連携と役割分担の下、課題解
決に取り組むための小学校区を単
位とした、まちづくり協議会を順
次整備し、自治力や地域力の向上
を図っています。

現在三つの小学校区まちづくり
協議会が設立され、それぞれ地域
の特色を生かしながら、地域コ
ミュニティの再生と活性化に向け
た取り組みが着実に進められてい
ます。防災・防犯はもとより、子育
てや健康づくりなど、それぞれの
地域課題に沿ったまちづくりをす
るためにも、引き続き各地区で小
学校区まちづくり協議会の設立を
進めてまいります。

自立的で持続可能な まちづくり

わが国の人口は平成20年を
ピークに減少の一途をたどり、本
市におきましても平成30年の6万
3793人をピークに人口が減少
傾向にあります。さらに2040
年には、人口減少や少子高齢化が
進展し、高齢者人口のピークを迎
えると予想されています。生産年
齢人口の減少から税収が減収とな
る一方で、社会保障費の増加や社
会インフラの老朽化に伴う維持管
理費の増加など、市の財政に及ぼ



およそ2kmにわたり咲き誇る「今井の桜」

す影響は多大なものとなります。
喫緊の課題である人口減少など、市を取り巻くさまざまな課題に対し、私は未来に向けた基盤を築くため、まずは第5次総合計画に即し、企業誘致をベースとした地域経済の活性化と雇用確保を促すことにより、人口減少の抑制や関係人口の創出につながる政策を進めていくことが持続可能なまちづくりの一つであると捉えています。

この課題に取り組むため、北総台地の強固な地盤上にあり自然災害に強い本市の特性を生かし、



包括連携に基づき実施された中学校でのデジタル体験会

データセンターなどの情報通信産業をはじめ、国道16号や464号など、幹線道路沿道に適した物流産業など、本市の地の利を最大限に活用した企業誘致を強力に進めています。
また、農業分野や環境分野の先端企業の誘致にも取り組んでいきたいと考えています。
産官学連携により未来を見据えたまちづくり
「包括連携協定」や「個別連携協定」を推進し、市が抱えるさまざまな行政課題において企業が有するノウハウを生かし、行政だけでは成し得ない事業を企業に展開していただいています。これまでも駅周辺地域活性化事業や熱中症へ



〔まちの特徴〕 東京都心・成田空港から30km圏と立地に恵まれた住みやすい

〔将来都市像〕 ときめきとみどりあふれる快活都市（白井市第5次総合計画における将来像）

- ◆ 面積 35・48 km²
- ◆ 人口 6万2350人
- ◆ 世帯数 2万7222世帯

プロフィール

の取り組み、スポーツを通じた地域振興など、さまざまな場面で官民連携による地域づくりが進められています。
「将来にわたり白井で暮らしていこう」「魅力ある白井に住んでみたい」と感じていただけるよう、先人が築いてこられた農・商・工のバランスや、豊かな緑の都市空間など、白井の魅力をさらに高め、白井ならではのまちづくりを構築するため、DXの活用をはじめ、時代に即した市民サービスを加速



まちで、全国有数の梨の産地
〔特産品〕 しろいの梨、しろいの自然薯
〔観光〕 しろい七福神、今井の桜、プラネタリウム、市民プール、白井そばん博物館、清戸の泉
〔イベント〕 白井市ふるさとまつり、白井梨マラソン、しろい桜まつり

させるとともに、子ども・子育て支援や、人生100年時代を見据えた健康づくり支援の、いっそうの充実を図ってまいります。
このためには、行政だけでなく、市民や市民団体、企業、大学などの教育機関といった多様な主体が連携を強化し、「オール白井」でまちづくりを進めていくことが重要であると考えております。
そして、オンラインワンの先端的な田舎白井を築いていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

世界とつながらる
魅力創造都市の実現に向けて

愛知県知多半島の中
央に位置する常滑市
は、伊勢湾に面し、沖
合には中部国際空港を
望む、南北に細長いま
ちです。豊かな自然に
恵まれ、常滑焼やのり
などの産地として全国
的に知られています。



「やきもの散歩道」にある土管坂

離着陸する飛行機や
ロマンチックな夕日の景観、焼き
物工場をリノベーションしたお
しゃれなカフェなど、見どころが
たくさんあります。

また、「ボートレースとこなめ」
があり、その収益金は一般会計に
繰り入れ、市の財政運営に活用し
ています。

ものづくりの街

市中心部にある「やきもの散歩

道」では、迷路の
ような曲がりく

ねった小道、レ
ンガ造りの煙突
や窯、黒塀の工
場、陶器の廃材
を利用した坂道
などがあり、独
特の雰囲気や歴
史を感じること

ができ、毎年多くの観光客が訪れ
ています。また、市内外の陶芸作
家が、古い土管工場などを陶房に
してさまざまな作品を創り出して
います。

令和4年には、「やきもの散歩道」
が国際芸術祭「あいち2022」
の会場となり、常滑焼や常滑の街
並みに着想を得た国内外のアー
ティストによる多くの作品が展示
されました。

国際観光都市を目指して

平成17年、中部国際空港（セン
トレア）の開港は、大きな転機で
した。人口も大幅に増加し、大型
商業施設やホテルが次々に建設さ
れ、令和元年には空港島に愛知県
国際展示場やLCC向けターミナ
ルがオープンし、インバウンドの
増加と相まって、国内外からの多
くの来訪者でにぎわいました。い
よいよこれからという時、新型コ
ロナウイルスが発生しました。

多くの来訪者があったにもかか
わらず、事業者、観光協会、行政
の横の連携がうまくいっておら
ず、好機を真に生かせていなかっ
たと感じていたこともあり、観光
客がゼロになったタイミングで、
抜本的な観光施策の見直しを決断
しました。

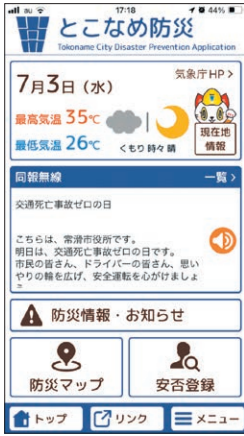


中部国際空港で開催した「二十歳のつどい」

まず、アフターコロナに向け、
常滑の高い観光ポテンシャルを生
かす環境をつくろうと考え、観光
戦略課を新設し、市民や事業者を
巻き込んで、㈱リクルートの協力
を得ながら「常滑市観光戦略プ
ラン2022」を策定しました。

計画策定に当たり実施した調査
では、私たちが見せたいものと、
観光客が見たいものにギャップが
あることがわかり、観光客が見た
いものをいかにブラッシュアップ
するかを計画に盛り込みました。

また、国際空港・国際展示場の
背後地としての魅力を高めるた



災害時に役立つ情報をまとめた防災アプリ

デジタルを活用
した。
防災体制を強化し



ポートルース場併設のキッズパーク「Mooviとこなめ」



6色のコミュニティバス「グリーン」

さらには充実していくため、令和7年1月から、その原資となる宿泊税を導入します。

DX活用による防災力の強化

令和4年に、災害対応および復旧復興の拠点として機能する免震構造を備えた市役所新庁舎を新築移転しました。また、防災危機管理課を市長直轄組織とするともに、退職自衛官2人を配属し、防



イベント盛りだくさんの愛知県国際展示場

め、プロモーションを強化し、利用者や宿泊者をターゲットにした「飲み歩きクーポンの発行」、空港と市街地を結ぶ「無料シャトルバスの運行」といった取り組みを試行的に実施しています。今後はこうした魅力向上につながる取り組みを

した防災機能の強化に取り組み、リアルタイムに状況を確認できる防災カメラの設置、同報系防災行政無線の内容をプッシュ型で配信する防災アプリの導入、位置情報と連動したデジタルハザードマップの構築を行いました。市民一人一人の命を守る安全の取り組みとして、今後も、DXを活用し、防災力の強化を図っていきます。

ポートルースによる地域貢献

ポートルースファンだけでなく家族連れでも楽しめるレース場として、ポートルースパーク「Moovi (モーヴィ) とこなめ」やコミュニティパーク「Green (グリーン) とこなめ」を併設した新スタンドをオープンしパーク化を進めました。

地域貢献として、ファンの来場促進とともに、市民、観光客をはじめ誰でも利用可能な交通手段としてコミュニティバスの運行を開始し、交通課題解消、地域の活性化にも取り組んできました。また、モーターボート競走事業が市の行政運営に果たす役割をよりわかりやすくするため「ポートルースまちづくり基金」を創設し、子どもの医療費、保育園の大规模改修費、消防車両の購入費など、市民の暮らしの安心のために

プロフィール



常滑市長
伊藤辰矢

〔将来都市像〕とことん住みたい世
界とつながる 魅力創造都市
〔まちの特徴〕自然や文化、常滑焼や
のりなどの産業といった「伝統ある資
源」と、空港や展示場など近年新しく

- ◆ 面積 55・90 km²
- ◆ 人口 5万8672人
- ◆ 世帯数 2万6095世帯



創り出された「新たな資源」が共存するまち
〔特産品〕常滑焼(急須、盆栽鉢、招き猫、タイルなど)、のり、アサリ、イチジク
〔観光〕やきもの散歩道、りんくうビーチ
〔イベント〕常滑焼まつり、春に市内各地区で行われる山車まつり

活用しています。
【あしがき】
本年4月1日に、本市は市施行70周年を迎えました。常滑焼という伝統産業を大切に、空港と共に成長するまちとして、新たな魅力を生み出し、そして市民の皆さまに「ずっと常滑。」と提供したいまち「ずっと常滑。」と提供していただけるよう、これからも「不断の努力」で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

誰もが行ってみたい、住み続けたいまち

玉野市は、岡山県の南端に位置し、瀬戸内海に面した豊かな自然に恵まれ、港や造船などの工業都市として発展しました。気候温暖で暮らしやすく、港がある開放的なまちとして、近年、都会からの移住者が増えています。

市の中心部にある宇野港は、かつては四国・高松港へ向かう宇高

航路の本州側の玄関口として多くの方が行き交い、特に四国出身の様々な配の方々にはおなじみの場所でしょう。昭和63年に瀬戸大橋が開通してからは、交通の要衝としての役割は終えましたが、アートの島として



宇野港

世界的に有名になった直島(香川県)へのアクセスが良いことから、海外を含めて大勢の観光客が行き交っています。

ものづくりのまち

本市のもう一つの特徴は、造船をはじめとした「ものづくりのまち」です。大正6年、旧三井物産(株)造船部がこの地で創業し、その後、三井造船(株)(現在の(株)三井E&S)として、船だけでなく、船用エンジンやガスタービンなど多彩な製品を製造し、関連企業と合わせて地域経済の屋台骨を支えてきました。現在は事業を再編し、(株)三井E

&Sは国内トップシェアを誇る船用エンジンなどの生産に特化するとともに、自衛艦などの官公庁船については当地で三菱重工マリタ イムシステムズ(株)が引き継いで建造しています。

造船以外にも、銅の精錬を行う日比製煉(株)や、江戸時代からの歴史を持つ塩作りのナイカイ塩業(株)、学生服の(株)トンボ、ファインケミカルの北興化学工業(株)などの工場が古くから立地し、地域の雇用や経済の安定に寄与されています。さらに、令和5年、(株)パワーエックスによる国内最大級の蓄電池組



造船所

立工場が立地し、生産を開始しました。脱炭素社会を目指し、自然エネルギーをためて、無駄なく使うためのツールとして蓄電池は必要不可欠であり、産業面で大いに期待されますが、さらに世界的な建築家の妹島和世氏が設計する工場や研究開発棟の建物自体が魅力的な観光資源となることから、オープンファクトリーとしてアトと組み合わせた観光拠点とすべく検討しているところですよ。

立工場が立地し、生産を開始しました。脱炭素社会を目指し、自然エネルギーをためて、無駄なく使うためのツールとして蓄電池は必要不可欠であり、産業面で大いに期待されますが、さらに世界的な建築家の妹島和世氏が設計する工場や研究開発棟の建物自体が魅力的な観光資源となることから、オープンファクトリーとしてアトと組み合わせた観光拠点とすべく検討しているところですよ。



Power Baseイメージ

(株)パワーエックス提供

アートと観光のまちづくり

令和7年は、3年に1度の現代アートの祭典・瀬戸内国際芸術祭2025が開催され、宇野港周辺も会場となる予定です。この機会にアートを楽しんでもらいたくとも、古くから景勝地として知られる渋川海岸や王子が岳、花の名所で、地元の新鮮な農産物や特産品などが購入できるみやま公園などへも足を延ばしていただきたいと考えています。



王子が岳

そのための取り組みの一つが自転車の活用です。玉野市観光大使にお笑い芸人の渚さんが就任しており、令和5年度は渚さんをはじめ吉本興業のお笑い芸人と地元高校生がコラボしてサイクリングマップを作成しました。また、玉野の歴史を再発見し、解説する冊子「玉野人」の中にもサイクリングマップを掲載し、市内に点在する歴史スポットを巡っていただくルートを提案しています。

住み続けたいと思えるまちづくり

本市では、令和5年度から新たな総合計画をスタートしており、「誰もが行ってみたい、住み続けたいまち」を育つ、TAMANOが育つ」を掲げ、限られた財源の中で本市の地域資源を有効に活用しつつ、市民のニーズや社会環境の変化に対応した質の高い行政サービスを提供することとしています。

中でも、若い世代が希望を持って住み続けたいと思えるまちをつくるのが課題であり、子育て支援や教育の充実を図っています。令和5年度に子ども医療費無償化の対象を18歳まで拡大したほか、本年度は在宅育児手当の支給や子育てアプリの機能強化などに取り組んでいます。

教育面では、ICT環境を充実してAI型デジタルドリルなどを導入するほか、少子化が進む現状と将来を見据え、小中学校の適正規模・適正配置計画を策定し、学校の再編を進めることとしています。住み慣れた地域で、健康で元気に暮らすことは多くの市民の願い

です。本市の地域医療の中核を担う玉野市民病院と、民間の玉野三井病院が統合し、新たに地方独立行政法人玉野医療センター「たまの病院」の建設を進め、令和7年1月に開業予定です。さらに、高齢化が進む中で市民の移動手段を確保するため、コミュニティバス「シーバス」と乗り合いタクシー「シートク」による公共交通の充実にも力を入れており、市内の中

心部ではバス事業者の協力で路線バスの運賃をシーバスに合わせる均一運賃にしたほか、「シーバス運賃無料デー」を設けて利用促進を図っています。今後、さらなる少子高齢化、人口減少も予測されますが、市民の声に耳を傾けながら、さまざまな事業者、団体と協働して、「誰もが行ってみたい、住み続けたいまち」を共に創ってまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 103.58 km²
- ◆ 人口 5万4499人
- ◆ 世帯数 2万6990世帯

〔将来都市像〕誰もが行ってみたい、住み続けたいまちを育つ、TAMANOが育つ

〔まちの特徴〕瀬戸内海の美しい自然に恵まれた、災害が少なく、気候温暖で暮らしやすい港町

〔特産品〕のり、番田芋スイートポテ



玉野市長
柴田義朗



ト、ニコニコ岩サブレ、久寿玉、玉野レモンカステラ、玉野五穀〔観光〕渋川海岸・王子が岳、みやま公園、深山イギリス庭園、宇野港周辺（アートサイト）、玉野海洋博物館〔イベント〕玉野まつり、たまの・港フェスティバル、深山さくらまつり、西行まつり、たまの渋川ビーチサッカーク大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。